

応募期間：令和3年
11月1～30日
応募総数：3,064票
選定票数：19票



橋名の決定



令和4年1月26日決定

選定理由

江戸時代に建設され、長年、この地域を水害から守ってきた歴史的遺産【雁堤：かりがねづつみ】にあやかり、富士市が未来にわたり安穏であること。加えて、旧富士川町と旧富士市をつなぐ橋となることから、地域の発展と明るい未来への懸け橋となるよう、2つの願いが込められた「富士川かりがね橋」と決定。

橋名の由来「かりがね堤」



雁堤（かりがねづつみ）は、岩本山の麓から富士川を西側に流すことを目的に整備され、岩本山から松岡水神社に至る全長2.7kmに渡る堤防です。この整備により川の東側への氾濫をなくし、今まで氾濫原であった地域が新田となりました。以後、氾濫から守られたこの平野は「加島五千石の米どころ」ともいわれる豊かな土地に生まれ変わります。暴れ川だった富士川に、堤防を整備した古郡家三代の偉業から300年を祝い、1986年から「かりがね祭り」が行われています。

また、雁堤の名称は、堤防の形が雁（がん）が連なって飛ぶ形に由来します。



雁堤投げ松明

江戸時代初期、全国各地で河川の治水と新田開発が行われ、富士川でも東側下流域が新田地帯として開発されました。

この開発に尽力した古郡家三代は、50年余の歳月と莫大な経費、そして治水の工夫を結集して、雁堤を完成させました。